

第4章 近代和歌山の発展



南方熊楠と紀南地方

時代区分	旧石器・縄文・弥生時代
	古墳時代
	飛鳥・奈良・平安時代
	鎌倉・室町時代
	戦国・安土桃山時代
	江戸時代
	明治・大正・昭和(戦前)時代
	昭和(戦後)・平成時代

熊楠と学問

和歌山を舞台に世界へ発信した南方熊楠は、1867年(慶応3)年和歌山市の橋丁に生まれました。子どものころから研究しようとする心が強く、動植物、歴史、文学などの本を次々と読み、大事なところは書き写していきました。「写して覚える」ということが、熊楠の生涯変わらない勉強方法だったのです。

旧制和歌山中学校を卒業して上京、大学予備門(東京大学)に入学しましたが、規則づくめの学校の授業をきらって退学、海外で新しい学問に触れたいとアメリカに渡り、6年後にはイギリスの首都ロンドンに移り、大英博物館図書室などで読書と筆写に明け暮れる毎日を送りました。こうして足かけ14年、海外で新しい知識をいっぱい吸収して帰国したのは、1900(明治33)年のことです。

帰国後、熊楠は研究の場所を熊野に求めました。那智山をはじめ、熊野地方にはまだ豊かな原生林が残り、人々の暮らしも古い時代のしきたりを守っていると聞いたからです。熊楠は、そうした原生林の動植物、特にキノコ、粘菌などの標本づくりと、山村の暮らし、日常生活の仕方やしきたりなどの調査にあたりました。昼間は山にはいって植物観察をし、夜はランプの明かりで外国の雑誌へ日本文化の紹介をする論文を書きました。3年後、今度は田辺へ研究の場所を移しました。田辺付近の神社の森には、原生林の残るところがありました。神社の森の古い木にはヤドリギやシダのなかま、キノコ、粘菌などいろんなものがついていました。熊楠は毎日のように森に入って標本の種類を増やしていきました。



熊楠筆 キノコ彩色図



南方熊楠

熊楠と環境保全

そんなやさき、大きな問題がもち上がりました。明治政府が進めた神社の合併です。1906年に出されたこの方針は、一つの町や村に一つの神社を残し、ほかはすべてこれに合祀・合併させようというもので、1906年に和歌山県下に5819社あった神社が、4

年後の1910年にはわずか609社になるというような合併が行われたのです。合併された神社の森は、それを売ってお金にかえたため、木がたくさん切られていきました。ふるさとの風景といえば、その一つに「鎮守の森」が思い浮かびます。熊楠は、神社がなくなることによってその地方の歴史やしきたりなど失われるものが大きいとして、人々の合意を得ない、強引な神社の合併に勇気ある反対運動をおこしました。はじめは賛成者も少なく、いろいろ苦勞しましたが、とうとう国会で取り上げられ、1918（大正7）年、神社合祀は廃止されました。

この問題がおさまってから、熊楠は再び研究生活にもどりました。以前と変わらずに日本文化を海外に紹介し、粘菌やキノコの収集に励み、国産の発見種数を増やしていきました。しかし、そうした研究の成果を発表する機会も得ないまま、1941（昭和16）年、熊楠は田辺市で75歳の生涯を閉じました。一生野にいて、世界にも知られる大学者でした。

今、白浜町番所山には、南方熊楠記念館が建ち、その庭には、昭和天皇が熊楠の生涯をたたえてよまれた「雨にけふる神島を見て紀伊の国の生みし南方熊楠を思ふ」の歌碑が建っています。

また田辺市中屋敷町の旧邸は修復され、隣接地に「南方熊楠顕彰館」が建設され資料の閲覧等に応じています。



わかやまの知識



【神 島】

田辺湾に浮かぶ神島は、わずか3haほどの小さな島ですが、生物の宝庫として注目を集めています。その理由は、昔から島の木も草も石もすべて島にまつられている神のものとしてだれも持ち去ろうとしなかったからです。1904（明治37）年に、はじめてこの島に上陸した南方熊楠は、熱帯、亜熱帯の植物が混生する姿に感動したといえます。ところが、1909年に島の神が近くの村の神と一緒にまつられたため、この島の木も下木が切られることになりました。

このことを聞いた南方熊楠は、島に生えている木は、魚が集まってくる大事な役目をもっており、また、神島のように人の手の入っていない島は、植物の生態を見るために大切な森だから、ぜひ残すようにと訴えました。熊楠の言い分を聞いて村長は下木を残すことに同意し、その後神島は魚付保安林の指定を受け、勝手に処分できないことになりました。

1929（昭和4）年、昭和天皇は田辺湾へ艦船をとめ、熊楠の案内で神島に上陸して生物の観察をされました。そのため、神島は全国的に有名な島となり、上陸する人も増えてきました。そこで、神島の自然を守るため熊楠はいろいろ働きかけ、とうとう1935年に神島は文部省から天然記念物としての指定を受けました。

神島には熊楠の和歌を刻んだ碑が建っています。それには、「一枝もこころして吹け沖つ風 わが天皇のめでまし森ぞ 熊楠」と刻まれています。海の風に、神島の森の木の枝を折ることのないよう注意して吹きなさい、とよびかけたものです。



神 島（田辺市）

* 1 第2編 第5章「天神崎の自然と保全運動」208ページ参照。